

## 1. 名古屋大学における言語文化教育

言語文化教育は、コミュニケーションツール、リサーチツールとして活用することが可能となるよう言語教育の有効性と効率化を図るとともに、異文化理解と異文化との共生の素養を培うことにより、国際感覚を備えた人材を養成することを目標としています。また、英語では、国際基準の英語力を育成し、学術論文の読解力と論文執筆能力、さらに、聴解と会話を含めたプレゼンテーション能力を養成することを目指しています。本学の言語文化教育の特色は次のとおりです。

### ① 少人数教育

英語では、「英語（サバイバル）」、「英語（基礎）」、「英語（中級）」、「英語（上級リーディング）」は40名規模、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は20名規模、「英語（セミナー）」は25名規模、英語以外の外国語は30名規模でクラス編成をし、高い教育効果をめざしたきめ細かな教育を実施しています。

### ② 生きた外国語教育

外国語母語話者を積極的に任用し、フェイストゥフェイスで生きた外国語に接しうるよう環境整備をはかっています。

### ③ 多様な外国語教育

英語以外の外国語科目として、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語、日本語（外国人留学生向け）、古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語、ポルトガル語、ベトナム語の授業を開講し、学生が、世界の多様な言語と文化に接することができるよう配慮しています。

### ④ 習熟度別コース編成、段階別クラス編成

英語では、入学時に実施されるプレイスメント・テストにより、A、Pre-A、B、Cコースの習熟度別コース編成を行っています。また、学生は、「英語（サバイバル）」（Cコースのみ）、「英語（基礎）」、「英語（中級）」、「英語（コミュニケーション）」等の授業を段階別に受講します。

### ⑤ 検定試験の活用

英語では、入学時と1年秋学期にTOEFLITP及びライティング能力を測るCriterion試験の一斉受験を行います。

また、英語及び英語以外の外国語の検定試験の結果によって、単位を認定する「検定試験による単位認定制度」を設けています。

### ⑥ eラーニング教材の活用

英語では、課外学習として、また、一部授業では授業内において、eラーニング教材を活用し、学習量の増加をはかるとともに、自律的な学習習慣を育てています。

## 2. 外国語の履修について

### ① 全学基礎科目・言語文化（外国語）の概略

名古屋大学では、外国語の授業は全学教育科目の中の一区分である「全学基礎科目・言語文化」として開講しています。

全学基礎科目・言語文化は、「言語文化Ⅰ」、「言語文化Ⅱ」、「言語文化Ⅲ」の3種類に分かれています。

言語文化Ⅰに配置されている授業科目の言語は、その履修が卒業要件に係る、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語及び日本語（対象は外国人留学生）です。また、言語文化Ⅱに配置されている授業科目の言語には、上記の言語のほかに、古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語、ポルトガル語、ベトナム語があります。

授業時間割のⅠ期からⅣ期までの「学部指定オビ」（指定時間帯）には、卒業に必要な単位が修得できるように授業が配置されていますが、「学部指定オビ以外」にも自由に選択履修できるように上記の言語の授業が提供されています。

## ② 「英語（基礎）」の履修手続き

「英語（基礎）」の授業は、入学時のプレースメント・テストの結果により、Aコース、Pre-Aコース、Bコース、Cコースに分かれて受講します。

「英語（基礎）」の受講可能人数は原則1クラス40名です。

受講する授業は、プレースメント・テストの結果をもとに受講調整を行い、決定されます。

受講調整の結果については、4月16日（金）に名大ポータル「教養教育院」ページに掲載します。決定された授業からの変更はできません。

また、「英語（基礎）」の受講調整結果とともに、「英語（サバイバル）」の受講者と受講クラスも名大ポータル「教養教育院」ページに掲載します。

「英語（サバイバル）」はプレースメント・テストでCコースとなった学生だけが受講する授業です。この授業は選択制ではなく、該当学生を学生番号順に各授業に振り分けます。新入生の皆さんは全員、4月16日（金）に、全学教育棟本館1階服部国際奨学財団ホール（学生ホール）掲示板で、自分が「英語（サバイバル）」の授業を受講する必要があるか、また、受講する必要がある場合は、どのクラスに入るかを確認してください。

以上をまとめますと、次のようになります。

(1) 4月4日（日）にTOEFL ITP試験又はCriterion試験を受験（全員）。

(2) 4月6日（火）にTOEFL ITP試験又はCriterion試験を受験（全員）。

(3) 4月16日（金）に公表される、「英語（基礎）」の受講クラスを確認。

(4) 同じく、4月16日（金）に「英語（サバイバル）」の受講者及び受講クラス公表です。（全員が確認。ただし、授業はCコースの学生のみ）

受講する授業が決まったら、生協等で教科書の購入をしてください。なお、1年生の英語の授業だけは、第2週目の4月19日（月）から始まります。

## ③ 卒業に必要な英語以外の外国語について

卒業に必要な英語以外の外国語としてドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語及び日本語（対象は外国人留学生）から1言語を選択し履修しなければなりません。Ⅰ期からどの言語を履修するか、その選択については、4月3日（土）に各学部等で行われる履修ガイダンスでの説明、各言語を紹介するウェブサイト「名古屋大学教養教育院言語文化科目」<http://lang.ilas.nagoya-u.ac.jp>の記載及び本冊子の「Ⅴ 卒業・進級のために修得すべき授業科目・単位」並びに「Ⅵ 授業時間割と履修計画」の「3. 学部別「言語文化」履修の指針」をよく読んで、慎重に希望順位を決定してください。

ただし、各言語に開設されるクラス数に限りがあり、希望どおりの履修ができるとは限らないので、4月3日（土）新入生履修ガイダンス終了後から4月4日（日）までにそれぞれの言語に希望順位をつけてWeb（名大ポータル）で履修登録を行ってください。

また、Ⅰ期に履修した言語とは別の言語をⅡ期から履修することもできますが、学部指定オビではなく学部指定オビ以外（Ⅱ期とⅢ期の5限目）に開講されているクラスを履修することとなりますので注意が必要です。詳細については、「Ⅷ 各授業科目」の「1. 授業科目表及び履修に関する注意事項（2）言語文化」を参照してください。

## ④ 英語以外の外国語（外国人留学生用日本語を含む）の履修手続き

卒業に必要な英語以外の外国語として、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語から、それぞれの言語について第1希望から第6希望をWeb（名大ポータル）の「英語以外の外国語」メニューから登録してください。

なお、外国人留学生は、Web（名大ポータル）の「日本語」メニューから日本語を選択することができます。教育学部、法学部及び経済学部においては日本語は必修となっています。

### 3. 全学基礎科目（言語文化）：各言語の案内

各言語を紹介するホームページ「名古屋大学教養教育院言語文化科目」<http://lang.ilas.nagoya-u.ac.jp>（または「名古屋大学言語文化科目」で検索）を参照してください。



### 4. 東海国立大学機構設置による新たな取組

国立大学法人名古屋大学と同岐阜大学は、2020年4月から法人統合により東海国立大学機構（以下「機構」という。）の元に設置されることになりました。（詳細は、<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/tokai-system/index.html> で確認してください。）

教育分野においては、名古屋大学と岐阜大学との間で共同できる取組を進める組織として「アカデミック・セントラル」を設け、国際通用性のある質の高い教育を実践し、東海地域をはじめ、国内外で活躍する次世代を担うリーダーとなりうる人材を育成することを目指します。当面の取組として、リベラル・アーツ教育のより一層の充実、ICTなどの新しい技術を活用した次世代型教育の導入を進めています。

教養教育院では、遠隔講義システムを活用した授業や学外で行う授業などにおいて、両大学の学生が共に参加して行う授業を提供します。また、「健康・スポーツ科学実習」のスキーや全学教養科目「特別講義（Summer Camp）」、「特別講義（Studium Generale I, II）」を両大学で共同実施することとしております。

さらに、海外短期研修プログラム（言語文化Ⅲ）等特色ある科目を共同実施していくことも予定しております。

#### 「健康・スポーツ科学実習Ⅱ（スキー）」

スキーの技術習得を通じて冬の自然に親しむとともに、雪上を自由に滑走できるためのスキルを身につけること、および、生涯スポーツの一つとして卒業後も楽しむことができるための基礎づくりをすることを目的とします。さらに合宿生活を通じて学生間のコミュニケーションを図ることや集団生活におけるルールやマナー遵守を実践することも目的の一つです。

#### 「特別講義（Summer Camp）」

夏休み（9月）に集中講義として実施します。留学生と日本人学生、学部生と大学院生、名古屋大学学生と岐阜大学学生が、英語だけを使って3泊の合宿をともに体験します。年齢、国籍、所属大学、専門分野を超えたグループをつくって、さまざまな活動に取り組むことを通じて、論理的思考力、コミュニケーション力、チームビルディングに必要なスキルを身につけ、自主学習への意欲と国際性を涵養します。

#### 「特別講義（Studium Generale I, II）」

ヨーロッパで800年の伝統を持つ「開かれた大学」の理念に基づいた講義を英語で体験してもらうことが狙いです。学内留学の気分が味わえます。毎回異なったトピックについて学内外からの講師が講義します。